

提示された英文および問題の解答と詳細な解説を記す。

解答一覧

- ・問1:③
- ・問2:②
- ・問3:③
- ・問4:③
- ・問5:②

詳細解説

問1: 下線部①で始まる段落およびその次の段落の内容と一致しないもの

正解: ③ Just like drinking milk, eating insects is good for the globe.

・解説: 第2段落において、乳製品(dairy foods)は「環境負荷が高い(high environmental footprint)」と明記されている。したがって、「牛乳を飲むのと同じように(地球に良い)」という記述は本文の内容と矛盾する。

・不一致でない選択肢(本文と一致するもの)の和訳:

1. About one in four people in the world eat insects as food.

(世界の約4人に1人が昆虫を食料として食べている。)

・第1段落に「世界人口の推定4分の1によって食べられている」とある。

2. Climate change is connected with our dietary choices.

(気候変動は我々の食事の選択と関係している。)

・第2段落に「我々の食料システムは温室効果ガスの排出を通じて気候変動に大きく寄与している」とある。

3. We have to find alternative sources of protein for the future.

(将来のために、我々はタンパク質の代替源を見つけなければならない。)

・第2段落の最後で、持続可能な未来のためにタンパク質の必要性をどう満たすべきか問い合わせている。

問2: 下線部②で始まる段落の内容と一致するもの

正解: ② Insects can change feed to protein in their bodies more effectively than cattle.

- 解説: 第3段落に「彼ら(昆虫)は家畜よりも効率的に飼料をタンパク質に変換する(convert feed to protein more efficiently than livestock)」と記述されている。

- 選ばなかった選択肢の和訳:

1. Insects are good for the environment since they give out no greenhouse gases.

(昆虫は温室効果ガスを全く排出しないので、環境に良い。)

- 本文では「(牛よりも)排出量が少ない(fewer)」とされており、ゼロではない。

2. Insects seem to have a larger impact on ecosystems because they eat a lot of crops.

(昆虫は多くの作物を食べるため、生態系への影響がより大きいと思われる。)

- 本文では「(現在消費されている主要な供給源よりも)環境への影響が小さい」とされている。

3. Insects need more land and water for raising than livestock animals.

(昆虫は家畜よりも育てるのにより多くの土地と水を必要とする。)

- 本文では「著しく少ない(significantly less) 土地と水」で済むとされている。

問3: 下線部③で始まる段落の内容と一致するもの

正解: ③ There are things unknown about the nutritional value of insects.

- 解説: 第4段落の冒頭に「昆虫の栄養データは未だ限られている(Nutrition data for insects is still limited)」とあり、未知の部分があることが示唆されている。

- 選ばなかった選択肢の和訳:

1. Insects have the same amount of iron regardless of species.

(昆虫は種に関わらず同じ量の鉄分を含んでいる。)

- 本文では、栄養素は「種によって大きく異なる(vary widely according to species)」とされている。

2. Some insects have a higher quality of protein than fish.

(一部の昆虫は魚よりも質の高いタンパク質を含んでいる。)

- 本文では、タンパク質の量は同程度だが「質については必ずしもそうではない(not necessarily quality)」と述べられている。

3. People do not gain weight, no matter how many insects they eat.

(人々は昆虫をどれだけ食べても体重が増えない。)

- 本文にそのような記述はない。むしろ、肉や魚と「同様のエネルギー量(similar energy contents)」を持つとされている。

問4: 下線部④で始まる段落の内容と一致するもの

正解: ③ 昆虫を食べるという習慣は、英國の文化にはなかった。

・解説: 第5段落冒頭に「我々の文化における昆虫食の欠如は、英國の多くの人々が昆虫を食べることを考えたことさえなかつたかもしれないことを意味する」とある。

・選ばなかつた選択肢の和訳:

1. グローバル化によって、人々の食習慣は保守化する傾向にある。

・本文では、グローバル化は味覚を変化させ「新しい食べ物を試す意欲を高めている (more willing to try new foods)」とある。

2. 昆虫食はテレビ番組によって普及していくかもしれない。

・本文では、テレビのバラエティ番組によって「昆虫は食べられないもの (inedible)」という見方が助長されることがあると述べられている。

3. 無表示で昆虫をタンパク源として食品に入れるのは違法である。

・本文では、姿が見えない形での利用が「より受け入れられやすい選択肢になり得る」と述べているだけで、違法性についてはこの文脈では触れられていない。

問5: 下線部⑤で始まる段落の内容と一致するもの

正解: ② The use of insects for animal feed may be accepted more than direct eating.

・解説: 第6段落において、昆虫自体を食べることに抵抗がある人々にとって、家畜の飼料としての利用は「より受け入れやすい (more acceptable)」と判明するかもしれない」と述べられている。

・選ばなかつた選択肢の和訳:

1. According to new rules, the use of insects as fish feed is not allowed.

(新しい規則によれば、昆虫を魚の飼料として使用することは許可されていない。)

・本文では、新しい規制は「魚の飼料としての昆虫タンパク質の使用を許可している (permit)」とある。

2. Using insects as animal feed will cause environmental problems.

(昆虫を動物の飼料として使用することは環境問題を引き起こす。)

・本文では、飼料作物のための土地や水を減らし、「持続可能な未来 (sustainable future)」のために重要」とされている。

3. At present, growing animal feed requires little land and water.

(現在、動物の飼料を育てるのに土地と水はほとんど必要ない。)

・本文では、昆虫飼料が「現在使用されている(膨大な)土地や水の量を減らすのに役立つ」とされており、現状は多くを必要としていることがわかる。

この英文の続きの読解や、特定の文法事項についての詳細な解説が必要であれば、いつでも知らせてほしい。

全文和訳: 昆虫食と持続可能な未来

近年、「昆虫を食べることは食の未来である」といった見出しが一般的になってきています。ワーゲンゲン大学の研究者によれば、約2,000種の食用種が知られており、世界人口の推定4分の1の人々が昆虫を食べています。しかし、昆虫は伝統的な英國の食事の一部ではありません。

食事の選択は、個人の健康だけでなく、地球の健康にも影響を与えます。我々の食料システムは、温室効果ガスの排出を通じて気候変動に大きく寄与しており、森林破壊、乱獲、汚染、そして生物多様性の損失を通じて生態系に損害を与えています。肉や乳製品といった伝統的なタンパク源は、環境負荷が高い（環境への足跡が大きい）と認識されています。では、手頃な価格で健康的、かつ環境に良い方法で、増加する人口のタンパク質需要をどうすれば満たすことができるのでしょうか。昆虫は、より持続可能な未来の一部になり得るのでしょうか。

昆虫は牛よりも温室効果ガスの排出が少なく、飼育に必要な土地や水も大幅に少なくて済むと報告されています。環境面での利点の一つは、彼らの高い飼料変換効率にあります。つまり、昆虫は家畜よりも効率的に、飼料を体内でタンパク質に変換できるのです。これらの理由から、昆虫は現在消費されている主要なタンパク源よりも環境への影響が小さい、潜在的なタンパク質供給源となり得ます。

昆虫の栄養データは未だ限られており、栄養成分は種、餌、そして生育条件によって大きく異なる可能性があります。グラム単位で見れば、一部の昆虫は肉や魚と同程度のエネルギー量と、同程度（質については必ずしも同じではありませんが）のタンパク質量を含んでいるかもしれません。特定の種は「健康的な」脂肪の優れた供給源でもあります。さらに、ほとんどの食用昆虫は鉄分の優れた供給源であると報告されており、一部の種は牛肉よりもグラムあたりの鉄分含有量が高くなっています。もっとも、虫に実際にどれほどの鉄分が含まれているかは、まだ分かっていません。

我々の文化において昆虫を食べる習慣が欠如していることは、英國の多くの人々が昆虫を食べることを考えたことさえなかったかもしれませんことを意味します。実際、昆虫は食べられないものだというこうした見方は、テレビのバラエティ番組によって助長されることもあります。それにもかかわらず、グローバル化は我々の味覚を変化させ、新しい食べ物を試す意欲をより高めています。昆虫を丸ごと食べることに抵抗がある人々にとって、昆虫が目に見えない成分として（食品中の原料としてのみ）使用されている食品を摂取することが、より受け入れやすい代替案になる可能性があります。

昆虫はまた、家畜や養殖の飼料として間接的に利用することもでき、現在動物用飼料作物を育てるために使用されている土地や水の量を減らすのに役立ちます。動物飼料の新しい供給源を見つけることは、持続可能な未来のために極めて重要であり、昆虫そのものを食べることに前向きでない人々にとっても、より受け入れやすいと判明するかもしれません。飼料における動物由来製品（昆虫を含む）の使用に関する英國の法律は複雑です。実際、飼料における加工済み動物タンパク質の使用は、一般的に禁止されてきました。しかし、新しい規制は、魚の飼料としての昆虫タンパク質の使用を許可しています。これは、家畜向けの昆虫飼料の受け入れに向けた大きな第一歩です。

昆虫の生産と消費には依然として大きな障壁がありますが、それらはより持続可能な未来への鍵となる可能性があります。